

Contents	
Point of View	1
Opinion	2~3
Activities	4

【事務局】 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-37-4 友田三和ビル3F
 TEL 03-3296-0769 FAX 03-3296-0779 URL http://www.ajec.com/

Point of View

◆ 会員社から寄せられた前向きな意見を背景に 顕彰・資格・法人化で具体的な取り組みを開始

日本編集制作会社協会では、協会活動や今後の方向性について会員社から広く意見を聞くため、このほどアンケート調査を実施しました。以下はその調査結果です（2005年7月実施、有効回答：40件、回答率58.8%）。

まず、協会の主要行事である編集セミナー、経営研修、ブックフェアに関しては、「あった方がよい」や「参加した方がよい」という意見がすべての項目で過半数を占め、とくに編集セミナーに関しては9割を超す高い支持率となっています。また、顕彰制度の設置、資格認定制度の導入、法人化の推進など、協会としての今後の取り組みや方向性に対する意見でも、「あった方がよい」や「目指すべきだ」とする回答が、いずれの項目も6割を超えました。

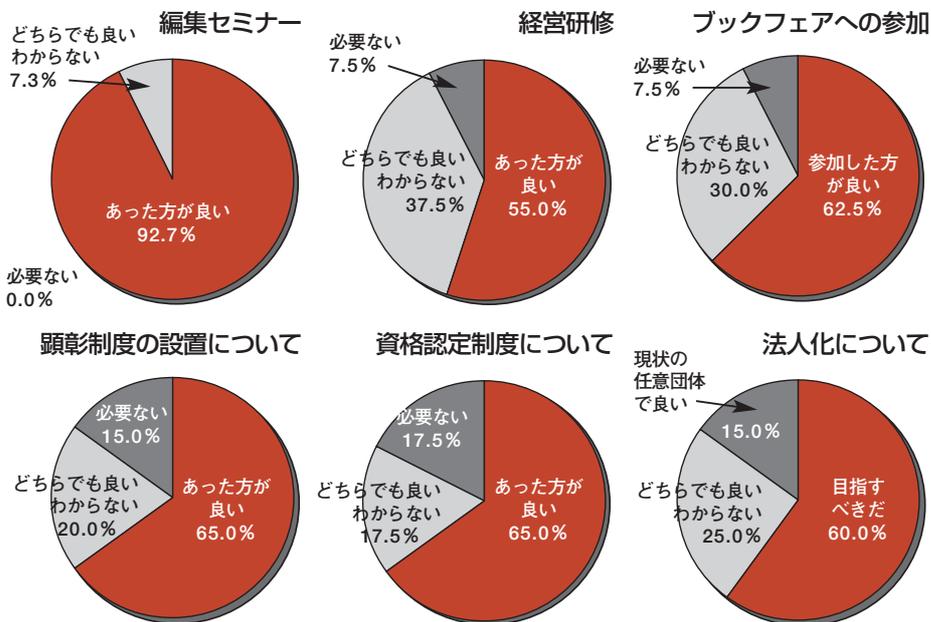
協会では2年前にも同様のアンケート調査（調査期間：2003年8月～9月、郵送方式、有効回答：46件）を実施していますが、それと比べると編集セミナーが前回調査の67.4%から92.7%へと大幅に支持を増やしたほか、経営研修も前回調査の45.6%から55.0%へと支持率を高めています。また今後の取り組みに対しても、「顕彰制度はあった方がよい」という意見が前回調査の26.1%から65.0%へ、「資格認定制度を設置してほしい」という意見も前回調査の21.7%から65.0%へと大幅にアップしたのをはじめ、法人化に関しても43.5%から60.0%へと支持率を高めています。

協会ではこうした会員社の意向をふまえ、2006年度から顕彰制度や資格認定制度の導入を目指しています。具体的には、顕彰制度に関しては優れたSF作品に贈られる「星雲賞」の選考方式を参考に、大勢の人が集まるブックフェアを活用し、協会ブースで展示する「わが社の1冊」に対して、来場者に優秀な作品をジャンルごとに

選んでもらう方法を検討しています。また資格認定制度に関しては、年間10回ほどの編集技術講座を開講し、すべてのカリキュラムを受講した人に修了証を交付するカレッジ方式を考えています。さらに法人化に関しては、社団法人に代わる受け皿として2006年度にも法律の施行が見込まれている「非営利法人」の認可取得を計画しており、すでに会計士・司法書士などの専門家との協議を開始しました。（副理事長・高雄宏政）

◆ アンケート調査の結果

（上段：現在の活動、下段：今後の方向性、N=40）



設問内容	必要/推進すべきだ		どちらでもよい/不明		必要でない	
	今回調査	前回調査	今回調査	前回調査	今回調査	前回調査
編集セミナーについて	92.7%	67.4%	7.3%	28.3%	0.0%	4.3%
経営研修について	55.0%	45.6%	37.5%	43.5%	7.5%	10.9%
ブックフェアへの参加	62.5%	65.2%	30.0%	28.3%	7.5%	6.5%
顕彰制度の設置について	65.0%	26.1%	20.0%	54.3%	15.0%	19.6%
資格認定制度について	65.0%	21.7%	17.5%	47.8%	17.5%	30.5%
法人化について	60.0%	43.5%	25.0%	21.7%	15.0%	34.8%

（前回調査は2003年8月～9月に実施、N=46）

特別寄稿 編集プロダクションの今

日本編集制作協会 理事長 檜森雅美

◆編プロは全国で1,500社程度

日本に編集プロダクションはどのくらい存在するのかと、よく聞かれます。実は、これがはっきりとわからないのです。かつて旧・通産省と協会の社団法人化について意見交換したことがあります。お役所でも実数はつかめていませんでした。一つの目安はNTTの電話帳ですが、これには現在1,406社が登録されており、東京だけで583社を数えます。タウン誌の発行元や広告制作会社などでも編集ものを手がけていますので、実数はその数倍と思われそうですが、出版系に限ると電話帳に登録されている1,500社程度と推計されます。

次に編集プロダクションの種類ですが、これには出版系や広告系など、いろいろな分け方があり、最近ではWeb系も増えてきました。取材に強いところ、デザイン力で売るところ、校正に特化したところなどもあります。また教材やガイドブック、エンタメ情報、サイエンス、マネー、料理など、ジャンルの棲み分けもなされています。規模的には2、3名から数10名規模までさまざまですが、5～10名程度が平均的です。

◆その役割が縦横に広がりつつある

編集プロダクションらしきものが生まれたのは、昭和30年代の出版社系週刊誌の創刊ブーム時代です。当時は“トップ屋集団”とも呼ばれていました（トップ屋集団はその後、取材記者とアンカーマンに分かれて自然に消滅）。70年代に入り、ビジュアル誌の創刊ラッシュが到来すると、編集の仕事の細分化が進みました。ライター、カメラマン、デザイナー、コーディネータ、校正の外注化が進展し、独立系の取材プロダクションやデザイン事務所が数多く誕生しま

した。これが編集プロダクションの初期形態です。一方で、編集ものの商業印刷の需要が増大し、社内報、PR誌、カタログ、マニュアルなどの制作会社が誕生しました。

80年代半ばから90年代にかけて、ムックの発刊点数の増大と雑誌のクラスマガジン化が進み、出版系のプロダクションの中にも編集機能を持つ編集プロダクションが誕生しました。これが現在の編集プロダクションのプロトタイプです。その後、Web系の制作受注が増大したり、DTP化の進展により川下のプリプレス工程まで取り込んだり、さらに川上の企画機能の充実を求められたりと、横にも縦にも役割が広がり、現在に至っています。

◆発行点数の増大などで需要が拡大

編集プロダクションの最新動向を見ると、受注量は増大しています。その理由は大きく分けて二つあります。一つは、雑誌、書籍ともに出版社の発刊点数が横ばい、もしくは増大傾向にあることです。トータルの売上金額は伸び悩んでいますが、1点あたりの発行部数が落ち込んでいるため、発刊点数はむしろ増える傾向にあります。その一方で、売上が伸びないので社員編集者を増やせない。このため中堅の出版社でも編集の外注化が進むようになったのです。

もう一つは、Web系の企業のコンテンツ需要が増大していることです。ヤフー、楽天、グー、サイバーエージェントなど、ポータルサイトからのコンテンツ制作の引き合いが多くなっています。景気の回復とともに企業出版物の制作需要も回復基調にあり、顧客の囲い込みを行っている企業がフリーペーパーを仕掛けようとするケースも増えています。

◆企画能力が求められる時代に突入

最近では企画機能への期待が非常に高まっていますが、この理由は二つあります。一つは、版元の社員編集者の負荷が高まり、企画に割く時間的・精神的ゆとりが少なくなっていることです。現場離れもこれに拍車をかけており、何が売れているかといった市場からの企画立案はできても、著者側やコンテンツソースを持っている側からの企画立案が不得手になりつつあります。このため編集機能だけではなく、企画からの丸投げ先を求めるようになってきました。

二つ目は、出版社が新しいジャンルや読者層の開拓に生き残りをかけ、知識やノウハウ、人脈のない領域に打って出なければならぬため、その分野を得意とする専門プロダクションとのアライアンスを模索しているためです。

総合的に見れば、現在のプロダクションが果たしている役割は、取材、原稿、校正、デザインといった個々の制作機能の提供だけにとどまらず、それらをトータルでプロデュースできる編集管理能力と、何が売れるのか、何を出版すると出版者側に大きな利益が生みだされるのか、といった提案ができる企画能力が求められる時代に突入したとも言えます。

著者もののジャンルでは、企画やプロデュース機能のみを売り物とする新しいプロダクションも誕生しつつあります。また、プロダクションの中には、販売部機能、広告部機能を兼ね備えた出版社として脱皮を図る動きもあります。

今後の展望としては、企画・編集機能と広告・販売機能の経営的な独立性が進展するものと思われます。そうした出版業界のニーズに対して、たしかな受け皿を作っていくことが、今後の編集プロダクション業界発展のキーとなっていくでしょう。

◆「AJEC 秋の全国拡大編集セミナー 2005」 10月28日に昨年を上回る規模で開催予定

組織委員会(細江弘司委員長)と教育委員会(小林哲夫委員長)の合同による「AJEC 秋の全国拡大編集セミナー2005」が、来る10月28日(金)に東京・一ツ橋の日本教育会館で開催されます。当日は「出版界の動向と編集プロダクションの役割〜もっと集まろうよ、編集の仲間たち〜」をテーマに、出版・編集の今日的な課題について出版社からお招きする講師に講演していただきます。

全国拡大編集セミナーは昨年から開催している行事で、出版業界の第一線で活躍されている経営者やベテラン編集者の方々に講師にお迎えし、出版業界の動向や課題、あるいは編集プロダクションに対する期待などを語ってもらい、相互理解と情報交換を図りながら、編集プロダクションの進むべき指針を探ることを目的としています。このため広く門戸を開放し、協会会員社だけでなく、全国の有力編集プロダクションにも参加を呼びかけており、昨年10月に開催した第1回全国拡大編集セミナー「秋の全国研修会in東京」には、北海道や九州などからも未加盟の編集プロダクションが参加し、総勢70名を超える出席がありました。

2回目となる今回は、出版業界、

出版販売・流通、雑誌づくり、書籍づくりといった出版・編集の基本テーマを取り上げていきます。講演の内容は以下の通りです。

◆第1部(午後1時30分~2時30分)

「出版が抱えている問題」

(株)筑摩書房専務取締役の松田哲夫氏に、今日の出版界全体の問題点と展望を語っていただきます。

◆第2部(午後2時40分~3時40分)

「今、どんな本が売れているか」

(株)出版ニュース社代表取締役の清田義昭氏に、出版販売面から見たベストセラー本、ロングセラー本の動向や特徴を紹介していただきます。

◆第3部(午後3時50分~4時50分)

「大人のための雑誌づくり」

(株)小学館「サライ」編集長の東直子氏に、読者をつかんだ雑誌づくりのノウハウについて語っていただきます。

◆第4部(午後5時00分~6時00分)

「増利できる書籍づくり」

(株)PHP研究所第一出版局局長の安藤卓氏に、売れる書籍づくりのポイントと編集プロダクションへの期待をお話していただきます。

◆懇親会(午後6時10分~)

講演会の後に同じ会場で懇親会を開催します。講師の方にも参加していただく予定です。名刺交換や情報交換などしながら、交流と親睦を図

っていただきたいと思います。

今年は昨年を上回る90名が参加できる会場を用意しておりますので、皆様お誘い合わせの上、多数のご参加をお待ちしております。



日本教育会館
東京都千代田区一ツ橋 2-6-2
電話 (03) 3230-2831

講師のプロフィール

松田 哲夫 氏



1947年東京生まれ。東京都立大学中退。'70年(株)筑摩書房に入社し、「ちくま文学の森」「老人力」など数々のベストセラーを手がける。'90年筑摩書房取締役、'99年専務、'01年専務取締役に就任。「ちくまブリーク」編集長、電子書籍配信サービス事業会社の(株)パブリッシングリンク代表取締役を兼務。テレビ「王様のブランチ」でもコメンテーターとして活躍中。著書は「編集狂時代」(本の雑誌社)、「印刷に恋して」(晶文社)など多数。

清田 義昭 氏



1943年福岡県生まれ。'67年立正大学文学部哲学科卒業後、(株)出版ニュース社入社。現在同社編集長兼代表取締役。共著に「図説日本のマスメディア」(藤竹曉編著、日本放送出版協会)、「変貌する読書空間」(植田康夫編、学陽書房)などがある。

東 直子 氏



1952年福岡県生まれ。青山学院女子短期大学英文学科卒業後、(株)小学館入社。「女性セブン」など週刊誌の編集に携わり、快適生活提案誌「サライ」(月2回刊)に'89年の創刊から参加。'98年に編集長に就任し、現在、同誌発行人および情報誌編集局プロデューサー。今年5月に「サライ」の兄弟誌として「読読(らくだ)」を創刊。

安藤 卓 氏



1960年愛知県生まれ。'82年慶應義塾大学法学部卒業後、(株)PHP研究所入社。「THE21」「ほんとうの時代」「Voice」(いずれも月刊誌)の編集長を経て、2001年より同社第一出版局局長。

Admission

新入会員社紹介

正 有限会社 インターノーツ

住 所 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-2 神田ビル4F
TEL. (03) 3556-7650 FAX. (03) 3221-6685 URL <http://www.internauts.co.jp>
代表者 代表取締役社長 井内秀明 設立 1995年10月 社員数10名
取引先 宝島社、徳間書店、英知出版、新人物往來社、産経新聞、ニッポン放送、朝日新聞社、小学館、河出書房新社、メディアビジョン、アイソリレーション、ベストセラーズ、NTTデータ通信、NTTプリンテック、NHK情報ネットワークス
特 徴 編集プロダクションとして数多くのIT・金融・歴史ものの書籍、ムックの制作を行う。編集企画からDTPまでトータルに対応。IT関連全般を得意とし、システムの構築、プログラミング、Webページの制作、サイト構築まで幅広く活動。IT系など各種セミナーの実施も請け負う。

教材部会

6
23

今年2回目となる教材部会が、6月23日(木)午後6時30分から東京・神田錦町の「ふくるる」で開催されました。当日は教材系の会員社10名が参加し、活発に意見・情報交換を行いました。



「ふくるる」で行われた教材部会の模様

経営研修セミナー

7
1~2

編集制作会社の現状を経営の観点から見つめ直すとともに、経営手法などを学ぶ場として毎年実施している経営研修セミナーが、7月1日(金)~2日(土)に神奈川県箱根町の「ホテルおくゆもと」で開催されました。当日はアンケート調査をもとに作成した「経営白書」を発表した後、社会保険労務士の中村俊之氏が「企業発展のための正しい労務管理」を講義。さらに会員社の事例研究として、(有)TU・TI編集室の土田俊子社長と(有)南雲デザインの南雲美恵社長が、それぞれ自社の業務内容を紹介しました。



箱根のホテルで開催された経営研修セミナー

企業出版&デジタル合同部会

7
21

7月21日(木)午後6時30分から、東京・神田司町の「むすびや 海苔米茶屋」で企業出版&デジタル合同部会が開催されました。今回は企業出版とデジタルのコラボレーションを目指した合同部会とし、お店を一軒借り切って親睦の場としました。当日は22名が参加し、久しぶりに参加した会員社などから近況報告を兼ねた挨拶がありました。

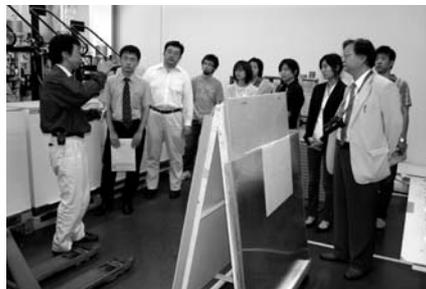


近況報告や挨拶をする会員社

編集セミナー

7
22

東京・板橋の三松堂印刷(株)で、7月22日(金)に編集セミナー「印刷の基本知識と今後の動向」が開催され、44名が参加しました。三松堂印刷は当協会の正会員で、当日は協会の窓口を務めている出嶋隆氏が講義。その後、印刷工場の見学を行いました。普段見ることのできない現場の様子に、参加者たちも印刷に対する認識を新たにしました。



三松堂印刷(株)の輪転機などを見学する参加者たち

東京国際ブックフェア

7
7~10

第12回東京国際ブックフェアが7月7日(木)~10日(日)に東京国際展示場(東京ビッグサイト)で開催され、同時開催された編集制作プロダクションフェアには、(株)アルク出版企画、(株)エーアンドエス、(株)エスオーエー・コミュニケーションズ、(株)エディット、(株)カルチャー・プロ、(株)キャデック、(株)シンクハウス、(有)トゥー・ワン・エディターズ、(株)パルス・クリエイティブ・ハウス、(株)群企画、(有)木杵舎など、会員社10社が出展しました。また協会特設ブースでは、会員社の自慢の作品を集めた「わが社の一冊」を展示し、PRに努めたほか、会員ガイドなどを配布しました。



写真上：編集制作プロダクションフェアの模様
写真下：協会ブース内に展示した「わが社の一冊」

<秋の主な行事予定>

- ◆10月6日(木) 秋季ゴルフコンペ
(取手国際ゴルフ倶楽部 東コース)
- ◆10月28日(金) AJEC秋の全国拡大編集セミナー2005 (於・日本教育会館、13時開場)
- ◆11月18日(金) 秋の例会
テーマ「どんな就業規則を作ってますか? ~目指せ、労使円満!トラブル回避の就業規則作り、教えます」
講師: 中村俊之氏(社会保険労務士兼 日本マンパワー社員教育専任講師) (於・日本教育会館、18時30分~)
- ◆12月15日18時30分~ 忘年会

事務局だより

本紙でもご紹介の通り、組織委員会と教育委員会の合同による「AJEC秋の全国拡大編集セミナー2005」が、10月28日(金)午後1時から東京・一ツ橋の日本教育会館で開催されます。当日は会員社以外の編集プロダクション

の方々にも広く参加を呼びかけており、午後6時過ぎからは懇親会を予定しています。講師の方やセミナー参加者との名刺交換や情報交換の場も設けていますので、何卒奮ってご出席いただけますようお願いいたします。(高雄宏政)